



コミュニケーションという 名のもとに

—これまでされてきたこと,
これからすべきこと—

武田美亜(青山学院女子短期大学)





武田美亜

(青山学院女子短期大学／

国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター)

- 専門：社会心理学
- 関心：人々が他者や自己について認識・判断するしくみ
 - 他者の“立場”に立とうとすること[視点取得]
 - (科学技術)コミュニケーション
 - これら心理過程に見られるエラーやバイアス

+ 本シンポジウムに対する私見

「女性」と括ってコミュニケーションを考えることは、得策ではない

■なぜか？

■では、どうすればよいのか？

+

なぜ、 「女性」と括ってコミュニケーションを 考えることが得策でないか

- 科学技術コミュニケーションにおいては、
欠如モデルからの脱却、双方向性が重要
- 「女性」と括ることは、コミュニケーションの
相手個人の属性やニーズを覆い隠し、
双方向的なコミュニケーションを阻害する



科学技術コミュニケーション

Science Communication: SC



- 科学技術の専門家が非専門家に対して行なうコミュニケーション (文部科学省, 2011)
- SC (広義) の4本柱 (林ら, 2005)

試験研究機関等の広報・情報公開などのPR活動

科学ジャーナリズム

科学コミュニケーション (狭義)

科学教育 (学校教育)

科学館や研究施設の科学コミュニケーターや研究者自身による、一般市民との双方向性の高い「対話」

+

科学技術基本計画 (文部科学省, 2011)

科学技術に
関する
学習の振興
理解の増進
関心の喚起

社会との関連
社会への責任
の強調

双方向的コミュニ
ケーションの強調

2000年頃
BSE問題



での対話等の積極的な

展開

・科学館等の体験活動等の取組の支援 等

武田美亜 「コミュニケーションという名のもとに ーこれまでされてきたこと、これからすべきことー」

141118 日本原子力産業協会特別シンポジウム「コミュニケーションの重要性 ー原子力の理解に向けて 女性の視点からー」

+ 欠如モデル

- 原発や遺伝子組み換え食品の安全性など、専門家による科学的評価を市民が受け入れられないのは、市民の科学知識が欠如しているせいだとする



- 知識の欠如している市民に一方的に知識を伝える形のコミュニケーションをしようとする

+ 欠如モデルに対する批判

- 市民が科学技術を受け入れないのは、知識が欠如しているからではない
 - 市民は科学者とは違う知識や判断基準を持つ
 - 科学技術(を専門的に扱う者)への不信
- 市民の属性や立場を理解し、ニーズを掬うことが必要

+ 「女性」と括ること： カテゴリ化，ステレオタイプ化

- 人は，性別，年齢や人種などの目立った特徴で人を分類しがち[カテゴリ化]
- カテゴリには，過度に一般化された認知[ステレオタイプ]がある
- 人は，あるカテゴリに入る個人に対して，勝手にステレオタイプを当てはめてしまう[ステレオタイプ化]

+ 「女性」と括ること： カテゴリ化，ステレオタイプ化

- 「女性」と括る(カテゴリ化する)と，
「女性だから●●」と十把一絡げな認知を
してしまい，個人の属性を見なくなる
- また，ステレオタイプに一致する属性や
ふるまいに注目しやすくなる
- こうなると，相手の属性や立場を理解し，
ニーズを掬うことは難しい



男性と女性の差とは何か？



- 「異なる」「差がある」といっても、統計上の平均値が違うだけで、男女の性質が重複しないわけではない

例) 身長

例) 共感スキル, システム化スキル

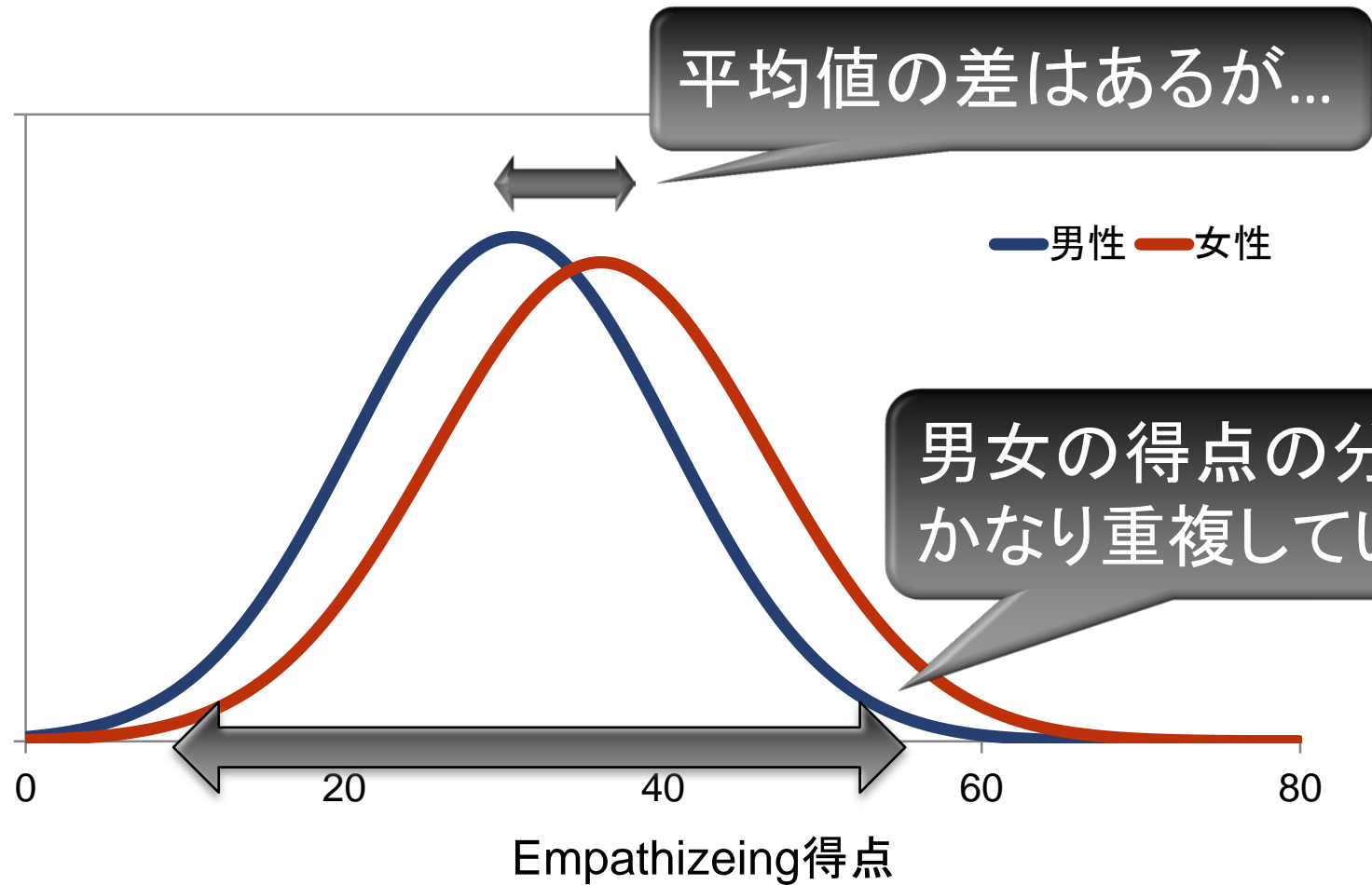
(バロン-コーエン, 2005)

- 共感が得意な脳.....女性に多い
- システム化が得意な脳...男性に多い

+

共感スキル (Empathizing指数) の男女差

(若林ら(2006)のデータから作図)



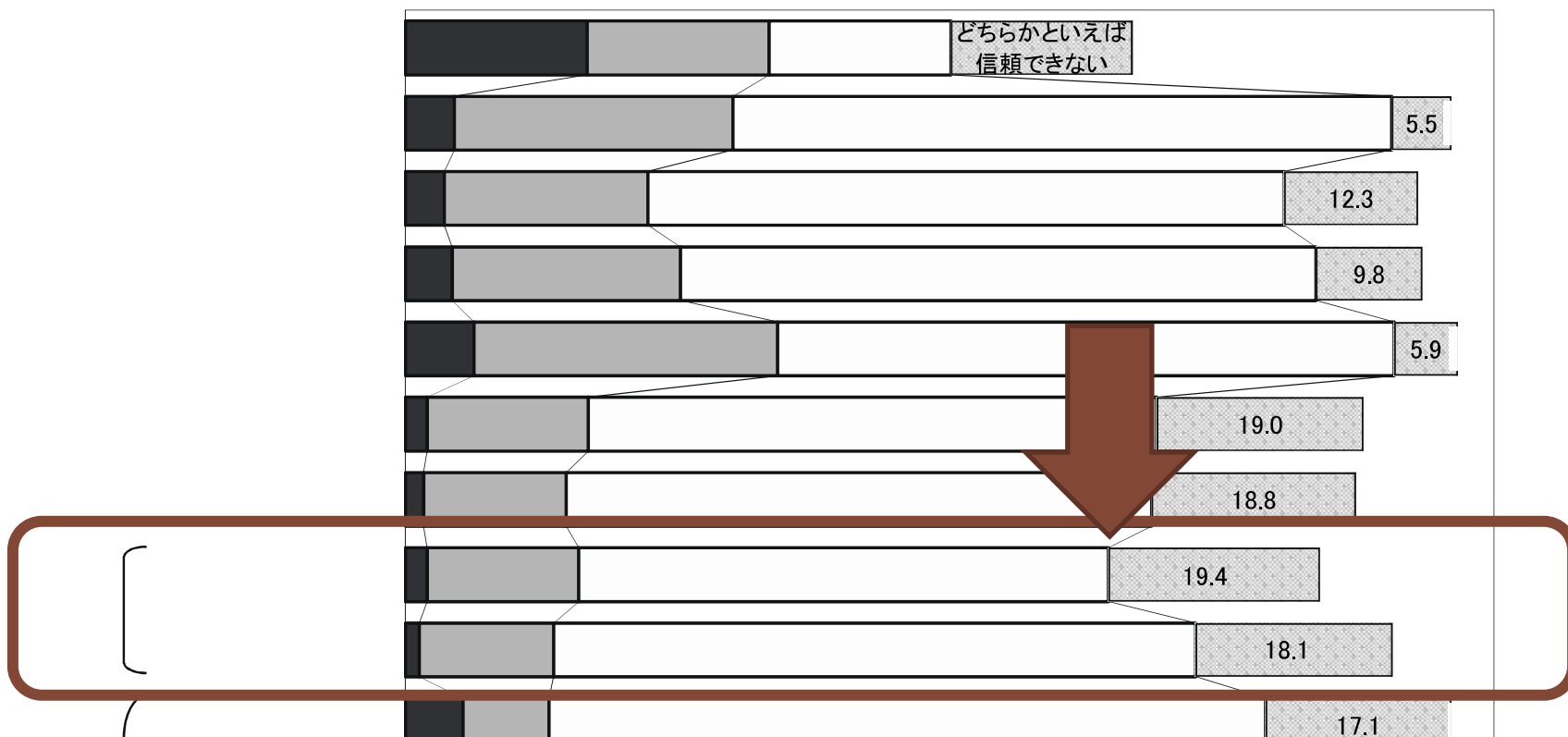
+ では、どうすればよいのか？

- 原子力に対する共感を得て、~~女性の~~理解、納得につなげるためには.....
- 科学技術政策やリスク・マネジメントにおいては、人々の信頼を得ることが重要
- 不安や不信を減じて信頼を得るためにはどうすればよいかを考える

+

「原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思うか？」

(日本原子力文化振興財団 (2013)の報告書より抜粋)

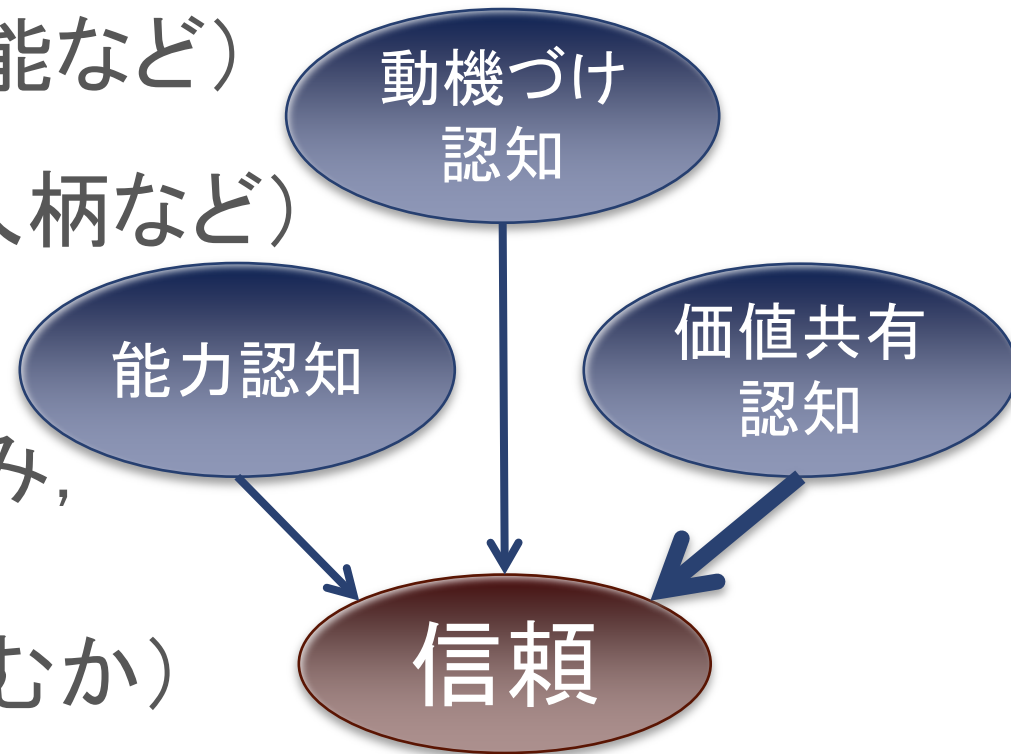


武田美亜 「コミュニケーションという名のもとに ーこれまでされてきたこと、これからすべきことー」

141118 日本原子力産業協会特別シンポジウム「コミュニケーションの重要性 ー原子力の理解に向けて 女性の視点からー」

+ 信頼の規定因

- 能力(専門知識, 技能など)
- 動機づけ(誠実さ, 人柄など)
- 価値の共有
(問題を捉える枠組み,
何を重視するか,
どのような結果を望むか)



+

具体的に，信頼を高めるために... 自発的な運命共同化(中谷内, 2014)

- 信頼される側が不適切な行動をすると，本人もその被害を被るような状況に，自発的に入ること
- 自発的に運命共同化すると，受動的に運命共同化した場合や，運命共同化しなかった場合に比べて，信頼される側はより信頼できると評定された

+ まとめ

- 「女性」と括ってコミュニケーションを考えることは、得策ではない
- コミュニケーションの相手に対して、相手をカテゴリ化して対処法を考えるのではなく、相手の視点を取ることや、相手の視点を取っていることを相手に認識してもらう方法を考えることが有効であろう



参考文献



藤垣裕子・廣野喜幸(編) (2008). 科学コミュニケーション論 東京大学出版会

上瀬由美子 (2002). ステレオタイプ^①の社会心理学 偏見の解消に向けて サイエンス社

岸田一隆 (2011). 科学コミュニケーション 理科の〈考え方〉をひらく 平凡社(平凡社新書)

中谷内一也 (2006). リスクのモノサシ 安全・安心生活はありうるか 日本放送出版協会(NHKブックス)

中谷内一也(編) (2012). リスクの社会心理学 人間の理解と信頼の構築に向けて 有斐閣

+ 引用文献

- バロン-コーエン, S. (著)三宅真砂子 (2005). 共感する女脳, システム化する男脳 日本放送出版協会
- 林衛・加藤和人・佐倉統 (2005). なぜいま「科学コミュニケーション」なのか？ 遺伝, 59, 30-34.
- 文部科学省 (2011). 平成23年版科学技術白書 文部科学省
- 中谷内一也 (2014). 運命共同化による信頼の改善 日本社会心理学会第55回大会発表論文集, 120.
- 日本原子力文化振興財団 (2013). 平成24年度原子力利用に関する世論調査の結果について(平成25年2月発行「平成24年原子力利用に関する世論調査」報告書 より抜粋) 日本原子力文化振興財団
- 若林明雄・S. バロン-コーエン・S. ウィールライト (2006). Empathizing-Systemizingモデルによる性差の検討—Empathizing指数(EQ)とSystemizing指数(SQ)による— 心理学研究, 77, 271-277.